

建て替えにより 将来にわたる優位性を確保

現在の浄水場の位置よりも標高が高い場所に移転して建て替えることで、将来にわたり、さまざまな優位性が確保されます。

新しい浄水場の予定地については、今後、調査・検討を進めていく予定です。

安全性

建て替え時の濁水リスクを極力回避できる

- ・ 正常な水質を確保しながら施工ができます

- ・ 場内更新に比べて、安全に、着実に工事を進めることができます

強靱性

停電による断水リスクが減る

- ・ 給水エリアの大部分が自然流下による送水が可能となり、停電時の断水リスクが軽減します

- ・ 施設全体の耐震性が向上します

持続性

継続的なインフラの提供

- ・ 施設が更新されることにより、耐用年数が延伸し、将来にわたり、継続的なインフラの提供が可能になります

最も低コストな配水方法は自然流下です。

低コストな自然流下を実現

大正14年、市街地よりもはるかに標高が高い現在の位置に浄水場を建設しました。

しかし、その後、宅地化が進んだため、浄水場よりも標高が高い区域には、圧送施設を整備し、電力により圧送しています。

現在の位置よりも標高の高い場所に建て替えることで、今後、数十年にわたり発生するランニングコストが低減されます。

大正14年～昭和中期



昭和中期～現在



今後の事業の進め方

更新計画と経営計画を並行して進める

浄水場の建て替えを進めていくには、今後、約87億円もの大規模な財政支出を伴います。したがって、浄水場の建設を進めるとともに、人口減少などにより落ち込みが生じている収益性についても、改善に向けた検討を並行して進めていく必要があります。

現在の水道料金は、消費税の改定を除き、約30年間据え置きました。将来にわたり安定した事業経営を行っていくためには、水道料金の見直しは避けて通れないものであり、令和5年度より経営収支バランスの検討を進めていく予定です。

平成5年 (1993)

令和4年 (2022)

基本計画

基本設計

詳細設計

建設

約2年

約1年

約2~3年

約5~8年

供用

更新計画

並行

経営計画

収支バランスの検討・料金の見直し

前回、水道料金を見直したのは平成5年4月

すでに約 **30** 年経過

※令和4年度時点